大学基準７．教育研究等環境

中期目標
【目標１】教育研究等を支援する環境を適切に整備する。
【目標２】学生・院生並びに教職員の教育研究環境を多角的に支援できる図書館サービスを展開する。
【目標３】大学構成員の立場に立ったキャンパス環境の整備を行う。

（１）全学教務委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　初年次教育における修学基礎力の向上を目的として、教養科目群でSAを配置する。 [1-2]　e-learning利用環境を組織的に整備し、定期的な利用講習やコンテンツの作成補助等を行うことで、講義時間外学習時間の確保、繰り返し学習による知識の定着、資格試験準備対策等のための教材作成に向けた授業支援を行う。			[1-1] ①授業評価アンケート ②GPA分布・推移 ③単位取得状況分布・推移 [1-2] ① 教育支援に対する教員満足度
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　学生間、特に初年次学生間のピアサポートを促す一助として、SA を活用する。SAの専門性を高める研修とともに、SA を有効活用するための教員研修を行なう。 [1-2]　インターネットを利用した授業配信や、学習資料のwebを通した常時利用について、科目担当者や情報処理課と共同して検討する。実践例を収集し「10分FD」等で周知を図る。	[1-1]　今年度SA研修会を2回開催し、SA制度の説明やSAの役割、SAとして感じたことの意見交換をおこなった。その研修会には授業中にSAを雇用している教員も出席し、授業中以外にSAとの交流をはかる場となった。 [1-2]　昨年度webカメラを購入し、インターネット配信の環境を整備した。非常勤講師説明会で、特に公認欠席者の学習権保障の方策として、インターネット配信の実施を訴えた。	達成度70% [1-1] 根拠資料：SA研修会スライド [1-2] 2キャンパスとなる2021年度の授業のあり方(遠隔授業)を引き続き検討していく。
2020年度	年次計画内容		
	[1-1]　SA採用者には、SAを活用する。SAの専門性を高める研修とともに、SAを有効活用するための教員研修を行なう。 [1-2]　Moodleを用いた授業展開を充実し、遠隔授業の実施方法について検討していく。		

（２）図書委員会

中期計画【計画２】（目標２に対応する計画）			達成度評価指標【指標２】
[2-1]　各種図書館ガイダンスのあり方を見直し、学生の有効な図書館利用を促進する。 [2-2]　教員の図書館利用環境について調査し要望があれば、有効な改革を検討し実現する。 [2-3]　新書庫設置の可能性を追求しつつも、現状書庫の有効活用のため、利用度の低い資料の整理を行うなど収納スペースの確保を行う。			① 利用者アンケート ② 各種図書館利用度数 ③ 書架スペースの棚数 ④ 資料増減量
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 昼休みを活用したデータベース等の利用ガイダンスを実施する。	① 新入生オリエンテーションは４月２日から５日のガイダンス期間に経済、経営、法律、心理、英米の５学科を実施。こ発と人間は基礎ゼミの時間を活用し、それぞれ19日と26日に実施した。内容は図書館の基本的な使い方をパワーポイントやDVD動画を活用して説明し図書館ツアーを行った。 ② 情報リテラシーガイダンスは、論述作文と連携し、前期は５月中旬にＯＰＡＣでの図書検索・館内での所在確認、新聞記事データベース、マイライブラリの使い方等の説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。後期は10月中旬にCiNiiを活用した雑誌論文検索と所在確認・入手方法についてのパワーポイントやDVD動画を活用し説明を教室で行い、図書館で演習課題を行った。 ＊利用者アンケートに基づく達成状況 今年度から情報リテラシーガイダンスのアンケートは、昨年度同様５段階（５が良い、１が悪い）で以下の設問で実施し評価を行った。 ・前期 (1)情報リテラシーの意義についての理解 (2)OPACで検索し図書を見つける方法について (3)新聞記事DBを利用して新聞記事をみつける方法 (4)マイライブラリで自分の貸出情報を確認する方法 (5)このガイダンスが大学での学修に役立つか ・後期 (1)雑誌の特徴について (2)CiNii Articlesを検索して雑誌論文を見つける方法 (3)OPACを検索して雑誌の所蔵と所在を調べる方法 (4)このガイダンスが大学での学修に役立つか 総合評価として「ガイダンスは役に立つか」との設	【情報リテラシーガイダンス】 アンケート結果より、学生の満足度は前年度とほぼ同様の傾向にあると思われる。 論述作文と連携した情報リテラシーガイダンスは、レポートや論文を書くための情報収集リテラシーの涵養に貢献しているものと考えられるため、引き続き実施していく。 【ゼミガイダンス】 前年度に比較して実施ゼミ数としては同様であるが、ここ数年申し込みがなかった経営学科からの申し込みがあった。また、参加人数も昨年度56名から90名に増加した。今後は、教員に対してゼミガイダンスの効果をPRし申し込み件数のさらなる増加に努める。 【昼休みガイダンス】 担当者の交代により実施内容及び PR 方法の検討を行うに止まった。今後は、教員との連携を強化し内容の改善を行い実施したい。

		問に前期では 87.1%、後期では 84.9%の学生から⑤④の評価を得た。その他の項目でも、前期で 87%、後期で 86%の学生から⑤④の評価を得た。 ③ ゼミガイダンスは３年次・４年次及び大学院のゼミを対象にゼミの担当教員と図書館担当者でガイダンス内容を吟味しゼミの課題に適合した資料の紹介やデータベースの使い方の説明を行い、実習課題で知識の定着をさせている。 ＊ゼミガイダンス実施件数（図書館利用度数）に基づく達成状況 前期４ゼミ（人間・経済・経営・法学研究科）、後期４ゼミ（人間・臨床）の合計８ゼミ 90 名に対して実施した。 ④ 昼休みガイダンスについては、2018 年度は申込者が無かったため、内容及び方法について検討を行うこととしたため、今年度は実施しなかった。	
	[2-2] ラーニング・コモンズを効果的に活用する方策を検討し利用環境の整備に努める。 教職員・学生からのラーニング・コモンズを活用したイベント等の利用希望については積極的に応えて行く。	ラーニング・コモンズも開設後、３年が経ち学生の自学・自習の場として定着している。また、教員によるゼミやゼミ成果の発表の場としての利用も着実に増えている。特に共同学習室の利用は堅調に伸びている。 複数の教員から希望があった、ラーニング・コモンズ内の各スペースの予約についてルールを定め運用を開始した。 多様な利用形態の一環とし 12 月 18 日に村上春樹ファンの集い「集まれハルキスト」を開催し８名の教職員・学生の参加を得た。	学生の利用が定着し特に昼から夕方にかけての利用が伸びている。今後も学生や教員の利用状況を注視し、また要望にも応えながらラーニング・コモンズの活性化を図って行く。
	[2-3] 理事会の決定に基づき、新札幌キャンパスでの図書館施設及び江別キャンパスでの新書庫の設計について具体的な検討を行い、資料移動及びそれぞれのキャンパスにおける図書館運営について基本計画案の策定を目指す。	新札幌キャンパス図書館施設を分館と位置付けた運用基本計画を取りまとめ、これに基づく施設設計を完了させた。 また、新札幌キャンパスで運用する図書の選定及び所在記号体系の再構築、人員体制についての検討を行いキャンパス移転の準備を進めた。	B 書庫に配列していた図書館事務資料及びマイクロ資料の一部を１号館１階研究室に移動した。これにより、2020 年度の増加図書の配架スペースを確保することができた。 また、新書庫を含む図書館施設整備については、新札幌への拠点展開が落ち着いた段階で改めて議論することした。
2020 年度	年次計画内容		
	[2-1]　新入生オリエンテーションでは図書館利用の動機付けを行う。論述・作文と連携した情報リテラシーガイダンスを前期・後期に実施し情報リテラシー能力の向上を図る。ゼミガイダンスにおいては、その有用性を周知しゼミにおける図書館利用の需要を拡大する。 昼休みを活用したデータベース等の利用ガイダンスを実施する。		
	[2-2]　ラーニング・コモンズを効果的に活用する方策を検討し利用環境の整備に努める。 教職員・学生からのラーニング・コモンズを活用したイベント等の利用希望については積極的に応えて行く。		
	[2-3]　新札幌キャンパス分館の 2021 年４月開館に向けて、2019 年度に立案した運用計画及び江別本館からの図書・資料移動計画を実行する。 江別キャンパス本館の閲覧室の統廃合、図書・資料の再配置、新書庫増築等について検討を開始する。		

（３）研究支援委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　個人研究費の次年度持ち越しのための研究を行う。 [1-2]　研究業績をデータベースシステムへ入力する仕組み・枠組み・支援体制を整備する。			[1-1] 他大学の状況を調査し、本学における実現可能性を見極める。関係部署に実現性の研究をしてもらう。 [1-2] 研究業績記入等教員の最低限の義務事項をまとめ、研究業績の公表義務を周知すると共に、研究費支給の一条件とすることの検討を始める。また所属長から働きかけを行うと同時に、アクティビティの高い教員を評価する（表彰等）。
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]　（個人研究費関係） (1) 傾斜配分の検討を行う。 (2) その他、個人研究費の柔軟な運用の可能性を検討する。 [1-2]　（外部資金関係） (1)科研費への応募に関して全教員宛にメール・掲示を通して適切な時期にアナウンスし、申請対象者に説明会を開催する (2)科研費申請者に対しては個別の対応を	[1-1] (1) 議論にはいたらなかった。 (2) 旅費に関して柔軟な運用が可能となった。 [1-2] (1) 科研費のアナウンスに関して、全教員宛メールおよび掲示を適切な時期に行い、申請対象者への説明会を開催した。	[1-1] (1) 計画通りにはできなかった。 (2) 個人研究費の運用が、若干柔軟にできるようになった。 [1-2] (1) 科研費のアナウンスは、計画通り十分に実施した。 (2) 科研費申請者へのサポートは適切に行われた。

	行い、研究者の支援を積極的に行う。 (3)研究促進奨励金の「重点研究」のカテゴリでは、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金への応募を条件とすることで、外部資金の獲得を目指す。 [1-3]　(研究業績関係) (1) 業績登録を researchmap に一元化した。情報の効率的利用、評価のために、状況をモニタする。 (2) 研究アクティビティの高い教員の評価基準について、現状では研究促進奨励金の審査委員を依頼する形で行っている。それ以外の基準について検討する。 [1-4]　(在外・国内研究員制度) (1) 現行ルールで特段の問題は見つかっていないが、継続的にチェックしていく。	(2) 科研費申請者に対して、個別対応を適切に行い、積極的に支援した。 (3) 研究促進奨励金「重点研究」への応募があり、1 件を採択した。 [1-3] (1) 業績登録を researchmap に一元化し、状況のモニタを行っている。 (2) 従来より科研費の研究代表者経験者には研究促進奨励金の選考審査委員会委員の候補にしている。それ以外の評価基準の検討は行わなかった。 [1-4] (1) 現行ルールでの問題は特になかった。	(3) 研究促進奨励金「重点研究」の応募があり、外部資金を獲得することで、外部団体との連携を図る意図は実現できた。 [1-3] (1) 業績登録を一元化できたため、モニタリングが効率的となった。 (2) 科研費の研究代表者については、従来より高い評価を与えている。その他の評価基準に関しては検討していない。 [1-4] (1) 引き続き、現行ルールをチェックしていく。
2020 年度	年次計画内容		
	[1-1]　(個人研究費関係) (1) 傾斜配分の検討を行う。 (2) その他、個人研究費の柔軟な運用の可能性を検討する。 [1-2]　(外部資金関係) (1) 科研費への応募に関して全教員宛にメール・掲示を通して適切な時期にアナウンスし、申請対象者に説明会を開催する (2) 科研費申請者に対しては個別の対応を行い、研究者の支援を積極的に行う。 (3) 研究促進奨励金の「重点研究」のカテゴリでは、日本私立学校振興・共済事業団の学術研究振興資金への応募を条件とすることで、外部資金の獲得を目指す。 [1-3]　(研究業績関係) (1) 業績登録を researchmap に一元化した。情報の効率的利用、評価のために、状況をモニタする。 (2) 研究アクティビティの高い教員の評価基準について、現状では研究促進奨励金の審査委員を依頼する形で行っている。それ以外の基準について検討する。 [1-4]　(在外・国内研究員制度) 現行ルールで特段の問題は見つかっていないが、継続的にチェックしていく。		

（４）電子計算機センター運営委員会

中期計画【計画１】(目標１に対応する計画)			達成度評価指標【指標１】
[1-1]　教育研究システムの安定運用を図る。 [1-2]　e-learning 利用環境を組織的に整備するなど、教員のニーズに合わせた授業支援を行う。 [1-3]　情報基礎科目の履修学生に対する学習支援を継続的に行うとともに、躓きのパターンを分析し、その情報を担当教員と共有することで、学生の理解度を高める工夫を行う。 [1-4]　ICT を活用した教育支援・学生支援の有益な情報収集を行うため、電子計算機センター運営委員若しくは情報処理課職員を各種研修会等に派遣し、本学にマッチしていると思われる試みを積極的に取り入れる。 [1-5]　サポートデスクスタッフが行っている映像教材への字幕挿入活動を教員に積極的にアピールし、利用してもらう事で、聴覚に障がいのある学生への講義保障支援を実施する。また、聴覚に障がいのある学生との懇談会を定期的に実施することで、よりわかりやすい字幕挿入の仕方を追求しつづける。 [1-6]　情報教育システム、アクティブラーニング教室といった新しい施設設備の有効活用を検討する。 [1-7]　２キャンパス展開を踏まえた、利便性の高い新たな学生支援システムの構築を検討する。			[1-1]　情報教育システム課題管理表 [1-2]　情報教育環境に関する調査 [1-3]　情報基礎科目相談内容一覧 [1-4]　研修報告、情報教育環境調査 [1-5]　字幕挿入実績一覧、字幕挿入に関するアンケート調査等 [1-6]　情報教育環境に関する調査 [1-7]　学生支援システムに関する調査、検証
2019 年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 2020 年度に向けた教育研究にかかわるネットワーク環境、サーバー環境等の整備を図る。	ネットワーク、サーバーの段階的な統合仮想環境化を推進した。2019 年度は、基幹ネットワークと事務ネットワークの統合を実施した。これにより経済的・効率的なシステム運用とセキュリティ強化等の改善が図られた。また、災害時等への対応として、自前サーバーからクラウドへの移行を段階的に進めた。2019 年度は大学ＨＰサーバーをクラウド化した。	各システムの安定運用等を目的としたネットワーク、サーバーの統合仮想環境化、クラウド化は計画通りに進捗している。次年度以降も引き続いて推進していく。
	[1-2]　moodle の機能改善および安定運用を継続的に行う。	①2019 年度も継続して、e-learning システム(Moodle)は運用している。2019 年度の支援内容は以下のとおり。 ・授業評価アンケートへの適用試行 ・年数回のセキュリティパッチ適用 ・アップデートとサーバパフォーマンスの最適化 ・全学的な新入生向け Placement Test の管理 ・カスタムプラグインの導入とトラブルシューティング ・年間 200 以上のコース作成（学期ごと） ・教育支援課のための出席入力のコーディネート ・経済学部ゼミナール登録 ②Moodle の利用を促進するために、利用者（19 名）を対象に使用用途に関するアンケート調査を行った。10 名から回答があり、結果を集約した。Moodle の利用者数を向上させるため、今後、全教職員へ回答結果をフィードバックする予定。	Moodle の最新の動作環境を調査し、必要な手当を行うことにより安定稼働を維持している。 Moodle の利用者増を目的に、アンケート調査結果を全教員へフィードバックする予定である。 Moodle の教育活用等の最新情報を獲得するために引き続き、Moodlemoot へ運営委員を派遣する。

		③Moodle の最新情報の獲得、今後に向けた運用拡大等を目的に、2 月末に開催された「Moodlemoot(全国年次大会)」に当センター運営委員を派遣した。	
	［1-3］　サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。	サポートデスク（学生スタッフ）を 12 名雇用し、コンピュータ基礎等の履修学生へのレポート課題の支援を日常的に行った。きめ細かな学修指導を行うため、毎月 1 回、学生スタッフミーティングを開催し、月別利用数の動向や質問内容の傾向等の情報共有を行った。	毎月の利用者からの質問内容等をまとめ、分析することで履修学生の弱点を把握するなど、情報教育への学修支援を順調に行っている。
	［1-4］　ネットワーク、ＩＲ、学生支援・教育支援システム等、大学改革に関係する研修会に参加し、本学への適用を検討する。	①2019 年度は福岡で開催された「大学 ICT 推進協議会年次大会」へ参加した。併せて ICT に関する最新情報の獲得を目的として同会の会員となった。このことに付随した成果として、Microsoft 社の包括ライセンス契約を結ぶことが可能になった。 ②学外主催の IR 研修会において当センター運営委員が講師を務め、全国の大学等への IR 普及に貢献した。本学の教学運営等の改善に資するため、IR 分析ソフトを導入し、様々な視点での IR 分析・発信を積極的に行った。	①大学 ICT 推進協議会への加盟、IR 分析ソフトの導入、当センター運営委員の研修会派遣等によって ICT に関する様々な情報収集・発信を継続して行うことができている。 ②2020 年度より Microsoft 社の包括ライセンス契約を締結したため、2020 年 4 月以降、教職員、学生が PC 購入する際は「Office」が無償配付されるメリットが得られることとなる。
	［1-5］　サポートデスクスタッフと連携し、効果的な字幕挿入を検討する。	①よりわかりやすい字幕挿入動画を作り上げることを目的に、聴覚障がい学生とサポートデスクとの意見交換会を 2 回開催した。この中で、文字の大きさやフォント等、いくつかの改善点を確認した。 ②現在本学が導入している字幕挿入編集ソフト「カムタジア」とは別のソフト「おこ助３」を検証した。字幕挿入作業に関しては「カムタジア」よりも使いやすいとの結論を得たが、動画をデータ化するために別売りのソフトが必要になる等の不都合も判明した。 ③本学のサポートデスク業務の参考とするため、酪農学園大学、北翔大学、北海道情報大学等、他大学の情報システム部門の担当者と意見交換を行った。	①字幕挿入の質の維持・向上に向けた取り組みを継続して行っている。 ②効率的、効果的な字幕挿入作業を行うため、編集ソフトの機能等の検証を継続して行う。 ③サポートデスク業務の拡充化等を目的に、他大学との意見交流の機会を促進していく。
	［1-6］　パソコン教室のクライアント環境、一般教室の教卓ＰＣ環境を検討する。あわせて、キャンパス整備計画（新札幌拠点展開）と連携し、将来の ICT 環境の検討を進める。	①2020 年度の大幅なシステム更新を前に、2019 年度は現行システムのリース契約を延長し、システム機能等に不具合が生じないよう定期的な点検保守を行った。 ②新札幌キャンパスの ICT 環境について、導入する PC の仕様、遠隔授業システム、自動貸し出しＰＣロッカー等の情報提供を学園側に行った。	①左記の作業によりパソコン教室等現行の情報教育システムは安定稼動している。 ②遠隔授業システムや PC 貸出ロッカーについて 2020 年度内の導入に向けて検討が進められている。
	［1-7］　２キャンパスで運用可能な、利便性の高い、新たな学生支援システムの構築を検討する。	①2 キャンパス間の通信授業を想定し、遠隔授業システム（CiscoWebex）の学内デモを行い、各機能の検証や導入の可能性について検討を行った。新キャンパス向けの「自動 PC 貸出装置」に関して、他大学の導入事例を現地調査する等、実際の導入に向けた検討を行った。 ②e-learning の利用を向上させるべく、Moodle の利用者にアンケート調査を行い、利用用途の状況を把握した。	①2020 年度の新キャンパス展開に向けた遠隔授業システムを含めた ICT に関する諸々の準備は順調に行われている。 ②moodle のアンケート調査結果を全教員へフィードバックする予定。

2020 年度	**年次計画内容**
	［1-1］2020 年度、教育研究にかかわるネットワーク環境、サーバー環境等の整備を実施する。
	［1-2］　新型コロナウイルス感染拡大防止のために Moodle を中心とした遠隔授業を推進する。 moodle の機能改善および安定運用を継続的に行う。
	［1-3］　サポートデスクスタッフと連携し、情報基礎科目の履修学生に対する学習支援の充実を推進する。
	［1-4］　ネットワーク、ＩＲ、学生支援・教育支援システム等、大学改革に関係する研修会に参加し、本学への適用を検討する。
	［1-5］　サポートデスクスタッフと連携し、効果的な字幕挿入を検討する。
	［1-6］　パソコン教室のクライアント環境、一般教室の教卓ＰＣ環境を検討する。あわせて、キャンパス整備計画（新札幌拠点展開）と連携し、将来の ICT 環境の検討を進める。
	［1-7］　2 キャンパスで運用可能な、利便性の高い、新たな学生支援システムを構築する。

（５）情報セキュリティ委員会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
［1-1］　個人情報の適切な保護と有効活用を行うため、個人情報に関する諸規程やガイドラインの見直しを常に行う。 ［1-2］　学内ネットワークについて、適切なセキュリティ対策を施し、安全かつ安定的に運用を行う。 ［1-3］　学生・教職員等の利用者に対し、継続的な注意喚起を行うことでセキュリティに対する意識を向上させ、インシデントを未然に防ぐ体制を維持する。			［1-1］　個人情報に関する諸規程、ガイドラインの確認 ［1-2］　セキュリティ対策作業実績 ［1-3］　注意喚起等実施実績（内容含む）、インシデント履歴
2019 年度	**年次計画内容**	**計画実施状況**	**指標に基づく中期目標の達成状況**
	［1-1］　「個人情報保護に関するガイドライン」の周知徹底を図る。	昨年度に一部見直しを行った「ガイドライン」をグループウェア、情報ポータル等を通じて全教職員（非常勤講師を含む）に配付した。新任	全教職員に改訂版ガイドラインを周知した。

		の教職員に対しては、赴任直後のガイダンスにおいて内容を説明した。	
	［1-2］　学内の各システムについて脆弱性が報告された場合、電子計算機センターと連携して迅速かつ適切なセキュリティ対策を実施する。	①ファイアウォール等によるセキュリティ監視体制を維持している。 ②情報処理課職員が計画的にセキュリティ研修を受講している。 ③ネットワークの統合と、信頼性のあるクラウドへの移行を段階的に進めている。	①システムの脆弱性に起因する外部からの不正アクセスは発生していない。 ②技術的対策に関する最新情報、最新技術を情報処理課内で共有している。 ③クラウドへの移行計画のうち3分の1が完了した。2020年9月に全面移行を予定している。
	［1-3］　引き続きセキュリティインシデントについて周知し、注意喚起を行う。インシデント発生未然防止に向けた啓発を行う。	①個人情報漏洩の事案が発生したことに伴い、以下の再発防止対策を講じた。 ・全教職員（非常勤講師を含む）に対して、個人情報の適切な管理運用について注意喚起するとともに、「個人情報保護に関するガイドライン」を再確認するよう求めた。 ・PCの誤操作による情報漏えいのリスクを防止するため、学内サーバー内の「公開」「非公開」サーバーを物理的に分離する等の対策を検討した。 ・学生向けの教育メールについて、これまで卒業後も使用できるようにしていたが、セキュリティ強化のため、2019年度以降の卒業生はこれを使用できないようにした。 ②文科省からの電子メール自動転送の原則禁止の通知を受け、全教員に注意喚起を行った。 ③成績等の個人情報を取り扱う機会の多くなる定期試験の直前に、管理徹底を呼びかける注意喚起文を全教員(非常勤講師を含む)に配付した。	①インシデント発生防止のための情報提供や注意喚起をメール等により継続的に行った。しかしながら、2020年1月末、学内サーバーに学生の個人情報を誤って保存し、これを公開してしまう事案が発生した。 ②教育研究上、メール転送が必要とする教員に対しては申請を受け個別に許可した（許可者2019年度15名）。セキュリティと利便性のバランスが実現した。 ③成績等の重大な個人情報の漏洩事案は発生していない。
2020年度	年次計画内容		
	［1-1］　「個人情報保護に関するガイドライン」の周知徹底を図る。		
	［1-2］　学内の各システムについて脆弱性が報告された場合、電子計算機センターと連携して迅速かつ適切なセキュリティ対策を実施する。		
	［1-3］　引き続きセキュリティインシデントについて周知し、注意喚起を行う。インシデント発生未然防止に向けた啓発を行う。		

（６）コラボレーションセンター

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）	達成度評価指標【指標１】
[1-1]　実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境を組織的に整備する。 [1-2]　学内ワークスタディの推進・拡大を通じて学生の就業力及び社会的資質の一層の向上を図ると同時に、経済的事情を抱える学生への支援機会を広く提供する。 [1-3]　実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）および能動的な活動に対する支援として、ピアサポーター（学生スタッフ）を配置する。ピアサポートによる学生同士の学び合いによる「学生がともに育つ相乗効果」の場を提供する。 [1-4]　学生の就業力を高めるために、学生発案のプロジェクトを支援し、学生の自主性、能動性を伸張させる。 [1-5]　すべての学生が有意義な学生生活を送れるようにするために、学生生活への不適応を解消し、イキイキと活躍できる「居場所」を提供する。 [1-6]　大学（第一キャンパス）の中心に位置する施設として、大学教職員、地域社会との協同を推進する。	[1-1] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査（アンケート） ③教育支援に対する教員満足度調査 [1-2] ①学生スタッフ勤務実績 ②進路決定状況 ③補助金交付状況 [1-3] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査（アンケート） ③教育支援に対する教員満足度調査 [1-4] ①プロジェクト活動参加人数 ②進路決定状況 ③学生満足度調査（アンケート） [1-5] ①コラボレーションセンター利用実績 ②学生満足度調査（アンケート） [1-6] ①施設使用状況 ②教育支援に対する教員満足度調査

2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] (1)実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を推進するために施設を紹介する動画を作成し、利用促進を図る (2)企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。 (3)課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境づく	[1-1] (1)講義やゼミなどでの利用が多い、SPACE2.3の使用方法について紹介する動画を作成し、全教員へ周知を行った。 (2)実践的な学びの機会として、冬（クリスマス）プロジェクトを企画し、江別市内のコーヒー店に協力してもらいカフェ屋台の運営を行った。 (3)「北海道ピア・サポートコンソーシアム（幹事校：北星学園大学）」の活動を通じて、北	[1-1] 資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート））(調査中) 資料：教育支援に対する教員満足度調査（調査中）

	りのため、コラボレーションセンター所員、学生スタッフ、担当事務局職員を他大学等への視察や各種研修会等に派遣し、情報収集活動を行う。 (4)『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。 (5)任意の学生向けイベント情報（コラボレーションセンターに限らず、他部署のイベントも含む）を統合したイベントカレンダーを作成し、周知する。	星学園大学、小樽商科大学へ訪問し、他大学の活動や施設を見学した。 (4)『コラボレーションセンター年報』第 5 号を発刊した。第 5 号では企業等に協賛広告を働きかけ、2 社から協賛広告を出稿していただいた。 (5)学内で開催される各種イベントの情報収集を行い、2 週間ごとにイベントカレンダーを作成し、コラボレーションセンターエントランスのデジタルサイネージに公開した。	
	[1-2] (1)学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフを学年ごとにバランスよく採用する。 (2)学生スタッフの就業力及び社会的資質の向上を図るため、各種研修会への参加や学内の FD,SD 委員会主催イベントにも積極的に参加する。	[1-2] (1)年 3 回（4.6.9 月）募集を行った結果、13 名の学生スタッフを採用することができた。 (2)学生スタッフ定例ミーティング内で、研修の時間を設けて、タイピングスキル向上研修や、時事ニュースを取り上げた討論などを行った。	[1-2] ・学生スタッフ勤務実績 （2019.4 月～／11 名） （2019.6 月～／13 名（2 名追加） （2019.10 月～／13 名） 勤務総時間 5,847 時間 10 分 学生スタッフ最大 658 時間 40 分 学生スタッフ最小 119 時間 10 分 学生スタッフ一人当たり平均 365 時間 35 分 ・進路決定状況 学生スタッフ卒業対象者 4 名 （道内民間企業内定 2 名、道外 NPO 法人内定 1 名、大学院進学 1 名） ・補助金交付状況／4,593 千円（申請中） 資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート））(調査中) 資料：教育支援に対する教員満足度調査（調査中）
	[1-3] (1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動（ピアサポート）を展開する。 (2)北海道ピア・サポートコンソーシアムへの参加を通じて他大学の学生との交流を深める。 (3)学生スタッフの相談カウンターでの業務内容の幅を広げる。 (4)Facebook ページ及び Twitter による新入生（入学手続き者）からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。	[1-3] (1)履修相談会を ENTRANCE、SPACE2.3 で開催し、48 名の新入生が参加した。 (2)北海道ピア・サポートコンソーシアムに参加している、北星学園大学、小樽商科大学、本学がそれぞれの大学で、幹事校イベントを企画し、本学も謎解きイベントを 10 月に開催した。本学以外の学生約 30 名が参加し交流を深めることができた。 (3)職員が主に担当していた、講義等での施設利用支援に、学生スタッフが積極的に関わっていくなど、学生対応以外の業務の幅が広がった。 (4)Twitter、Facebook ページによる新入生からの相談窓口を開設し、新入生から 3 件の質問があり、学生スタッフが質問に回答した。また、新入生の入学後の不安を軽減する目的で、「入学前謎解きイベント」企画したが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントが中止となった。	[1-3] 資料：コラボレーションセンター利用実績 資料：学生満足度調査（アンケート）（調査中） 資料：教育支援に対する教員満足度調査（調査中）
	[1-4] (1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型プロジェクトを募集する。 (2)採択されたプロジェクトを紹介する動画を作成し、学内外に向けて積極的に情報発信する。 (3)学生発案型プロジェクトの活動報告会を開催し、プロジェクト間のつながりを広める。	[1-4] (1)「学生発案プロジェクト」の募集を行い、3 件（新規 1 件、継続 2 件）を採択した。 (2)プロジェクトを紹介する動画の作成は実施することができなかった。 (3)1 年間の活動報告を目的とした、最終報告会を 1 月に開催した。プロジェクトに参加した学生には発表するだけでなく、他のプロジェクトの報告も見学するようにしたため、プロジェクトの進め方などを参考にする機会となった。	[1-4] ・プロジェクト活動参加人数／計 25 名 1.「沖縄を「戦争」と「基地問題」から考えるプロジェクト」5 名 2.「携帯アプリ開発プロジェクト」3 名 3.「音声認識を利用した情報保障をより豊かにするプロジェクト」15 名 ・資料：学生満足度調査（アンケート）
	[1-5] (1)友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のために、多くの学生が参加できる企画を実施する。 (2)部活動・サークルなどを紹介するイベントの開催や応援など、帰属意識を高	[1-5] (1)経営学部新入生ガイダンスにおいて、「謎解きゲーム」を企画し、準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響でガイダンス時間が大幅に短縮され、実施することができなかった。 (2)ENTRANCE のデジタルサイネージを使用	[1-5] 資料：コラボレーションセンター利用実績

	める企画を実施する。 (3)情報ポータルや Twitter などを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。 (4)季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り（四季の変化を学内に）を行う。 (5)「居場所」としての環境を維持、整備する。	して、男女バスケットボール部全国大会の試合の様子を上映した。 (3)Twitter、Facebook、Instagram から積極的に情報発信を行った。また、昨年度リニューアルした「広報コラボ（A4 版）」を毎月発行した。 (4)「雛飾り」「五月人形」「七夕」「クリスマスツリー」などの季節を意識した展示を行った。「お正月」については、事前の準備がスムーズに行えず実施に至らなかった。 (5)エントランスに設置した「利用者の声」、さらに、学生スタッフが日常的に清掃しやすいように、清掃グッズを充実させた。特に汚れが目立つ SPACE4 のソファの清掃を行った。 ENTRANCE で実施した、「大喜利」「今週の謎」「アンケート企画」には、多くの学生から投稿などがあり、コラボレーションセンターが居場所としての役割を果たせたと評価できる。	
	[1-6] (1)近隣の小中学生を対象とした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。 (2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。 (3)ホームページや Facebook ページなどの SNS を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。 (4)教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Lunch Time Talk」 をエントランスで開催する。 (5)卒業生に関与してもらえる仕組み作りを検討する。	[1-6] (1)大学祭で「白玉だんご屋台」「謎解き」の開催、また、ハロウィンの時期に小学校低学年を対象とした「こらぼまほうがっこう（謎解き）」を開催した。 (2)主催プロジェクトにおいて４つのプロジェクトを実施した。 ①アールブリュットアート展プロジェクト 今年度は外部の事業所などからの作品は展示せず、学生の作品のみを展示した。 ②江別市からの謎解きゲーム問題作成協力 江別市から「江別市リアル謎解きゲーム」の問題作成依頼を受け、２問問題を作成し提供した。 ③SGU×SDGs×NPO･NGO の可能性――社会を変えるという働き方を学ぶ 人文学部公開講座に合わせて大学祭にトークセッションと展示を行った。 ④経済学部の「産業調査演習」協力先の斜里町から提供のあったサケのポスターを、調査報告とともにエントランスにて展示をした。 (3)情報ポータル、ホームページに加え、Facebook ページ、Twitter、Instagram を使用して情報発信を行った。特に学生が多く利用している Twitter からの発信を積極的に行った。また、「施設紹介、学生スタッフ活動紹介動画」を作成し、本学の公式ユーチューブチャンネルに登録した。 (4)「SGU Lunch Time Talk」を５月にまとめて計６回開催した。札幌学院大学生協におにぎりを提供してもらう企画も継続して行った。 (5)限られたスタッフの中では、ピアサポートの充実や、学内外への広報等、ほかに優先的に取り組むべき事柄が多いと判断した。	[1-6] ・資料：施設使用状況 ・資料：教育支援に対する教員満足度調査 ・プロジェクト活動参加人数／計 19 名 「アールブリュットアート展プロジェクト」６名 「江別市謎解きゲームプロジェクト」13 名 「SGU×SDGs×NPO･NGO の可能性」約 20 名 （展示スペースは約 100 名） ※上記には学生スタッフ含む。

2020年度	**年次計画内容**
	[1-1] (1)実践的な学び、課題解決型学習（Project-Based Learning）を推進するために、施設の利用方法等を改めて周知する。 (2)企業と連携した商品開発や、店舗運営など、実践的な学びの機会を提供する。 (3)課題解決型学習（Project-Based Learning）を効率的に進める環境づくりのため、情報収集活動を行う。また、新札幌キャンパスでの展開について検討を開始する。 (4)『コラボレーションセンター年報』を発行し、センター運営に係る情報を全学的に共有する。 (5)任意の学生向けイベント情報（コラボレーションセンターに限らず、他部署のイベントも含む）を統合したイベントカレンダーを作成し、周知する。
	[1-2] (1)学内ワークスタディを推進するため、「学内ワークスタディに関する規程」に基づき、学生スタッフを学年ごとにバランスよく採用する。 (2)学生スタッフの就業力及び社会的資質の向上を図るため、学内の FD,SD 委員会主催イベントにも積極的に参加する。 (3)新札幌キャンパスでの学生スタッフの関わり方について検討する。

	[1-3] (1)学生スタッフによる、学生が学生を育てる「共育」活動（ピアサポート）を展開する。 (2)北海道ピア・サポートコンソーシアムへの参加を通じて他大学の学生との交流を深める。 (3)学生スタッフの相談カウンターでの業務内容の幅を広げる。 (4)Facebook ページ及び Twitter による新入生（入学手続き者）からの相談窓口を開設し、新入生の不安軽減を図る。
	[1-4] (1)学生が中心になって構想、計画する学生発案型プロジェクトを募集する。 (2)学生発案型プロジェクトの活動報告会を開催し、プロジェクト間のつながりを広める。
	[1-5] (1)友達作りや、学生の交流を促す企画、学生生活上の不安解消、学生生活適応のために、多くの学生が参加できる企画を実施する。 (2)部活動・サークルなどを紹介するイベントの開催や応援など、帰属意識を高める企画を実施する。 (3)情報ポータルや Twitter などを通じて、在学生への日常的な情報発信を行う。 (4)季節の行事の実施を通して、学内の雰囲気作り（四季の変化を学内に）を行う。 (5)「居場所」としての環境を維持、整備する。
	[1-6] (1)近隣の小中学生を対象とした企画を実施するなど学外に視点を向けた企画や方策を検討する。 (2)地方公共団体、企業、他大学等と連携した企画や事業の可能性を追求する。 (3)ホームページや Facebook ページなどの SNS を活用し、学内のみならず、卒業生、保護者、地域・企業等への情報発信を行う。 (4)教員が研究等について語ることを通して、教員のイキイキを可視化し、高等教育機関らしさをアピールするとともに学生に知的刺激を与える「SGU Lunch Time Talk」 をエントランスで開催する。 (5)卒業生に関与してもらえる仕組み作りを検討する。

（７）常任理事会

中期計画【計画１】（目標１に対応する計画）			達成度評価指標【指標１】
講義の担当時間と研究業績の公表等のバランスについて調査し、適切に管理する。			① 講義担当時間推移と研究業績の推移 ② カリキュラムの２キャンパス運用計画の策定と公表
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	・新キャンパスにおける開講科目、特に教養科目・資格関連科目の開講の方針を確定する。 ・新キャンパスにおける施設・設備の仕様を確定する。	・新キャンパスにおける教養科目・資格関連科目の開講方針を確定し、経済経営学部の届出申請に反映させた。 ・拠点小委員会が中心となり、新キャンパスにおける施設・設備の仕様を確定させつつある。	・2021 年度の新キャンパス、経済経営学部の開設に向けて、科目の開講方針を確定することができた。 ・新キャンパスの施設・設備をスケジュール通り確定させていくことができた。
2020年度	年次計画内容		
	・新札幌キャンパスにおけるオープンエジュケーション（開かれた大学）を実現するため、社会連携センターと経済経営学部の教育研究活動の連携・活用を図る。 ・江別キャンパスにおける人文学部と法学部の学部間連携案を検討する。 ・地域社会マネジメント研究科と法学研究科の再編について検討を進める。 ・滋慶学園との連携事業を進める。		

中期計画【計画３】（目標３に対応する計画）			達成度評価指標【指標３】
学生の学修環境及び教員の教育・研究環境の整備に関わる方針について、財政状況を考慮しつつ検討し、その結果を公表する。その方針に基づき、キャンパスの施設設備の整備を行う。			① 方針の策定と公表 ② 整備状況実績報告
2019年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	・新札幌キャンパスに関しては、実施設計を確定し、秋から竣工を始める。引き続き、建設コンサルティングを導入して、建物のライフサイクル全体でコストを削減し、設計・施工における監理の適正化を図る。 ・G 街区に進出する専門学校と連携協定を進め、公開空地の管理について決定する。 ・江別文京台キャンパスについては、引き続き学生規模に応じたキャンパスのコンパクト化と管理運営の効率化を進め、学習環境改善と課外活動活性化のための施設整備について、整備計画を策定する。 ・施設の整備、設備・機器・情報インフラの更新については、引き続き優先順位を付して年次計画的なメンテナンスサイクルを確立して経費を平準化する。 ・学生規模に応じたキャンパスのコンパクト化と管理運営の効率化を進める。あわせて、学習環境改善と課外活動活性化のための施設整備を進める。 ・施設の補修、設備・機器・情報インフラの更新は、優先順位を付して年次計画的なメンテナンスサイクルを確立して経費を平準化する。減価償却引当特定資産に一定額をプールして所要経費を調達する。	・拠点展開と産学連携の小委員会を設置し、専門のコンサルタントと相談しながら、大成建設と定期的にミーティングを実施し、実施設計を確定した。2019 年 6 月に土地の引き渡しを受け、10 月に着工した。 ・新札幌の街づくりの構成員として、I 街区も含めた構成員全体会議に月に 1 度出席し、他の構成員との協力関係や隣接する専門学校とＧ街区の公開空地管理などについて協議を進めた。 ・札幌市とは青少年科学館からキャンパスへ続くプロムナードの整備について意見を交換した。 ・図書館書庫の増築、第２キャンパスの整備、老朽施設の解体等の大規模事業については、具体的計画の策定に至らなかったが、第 2 キャンパスの整備計画を策定した。 ・江別文京台キャンパスにおいて学習環境の整備を進め、老朽化した設備の計画的更新を行った。 ・環境負荷（二酸化炭素排出）の低減と消費電力削減のため、照明の LED 化（D 館教室及び学生プラザ）を進めるととも	・現場事務所で月 2 回の定例会議を開催し、工事監理報告書の提出を受けて、進捗状況を逐次確認している。 ・新札幌全体連絡会議の議事次第を参照。エリア・マネジメントについて、引き続き検討を続けている。 ・プロムナードの整備に関連して、駐車場についての覚書を札幌市と締結した。 ・クラブ活性化委員会での議論を基に、夜間照明設備やテニスコート人工芝改修などの整備計画を策定した。その際に、経費を平準化するために、借入れについても検討している。 ・Ｄ館教室の空調設備新設、Ｂ館・Ｄ館教室の視聴覚機器更新、SGU ホールの設備更新、学生プラザの照明改修、事務用パソコンの更新などを実施した。 ・省エネルギー対策により、2019 年度の電力使用量は 2016～2018 年度の 3 か年平均に比較して 88%、電気料金は 93%に抑えることができた。 ・統合仮想環境へ移行することにより、情報セキュリティを確保しながら機

	・環境負荷（二酸化炭素排出）の低減と消費電力削減を進める。 ・情報ネットワーク技術を適用した教育・研究環境の充実を図るとともに、情報資産を脅かす新たなリスクが次々に発生する現状を踏まえ、情報セキュリティ対策のさらなる強化を図る。	に、教室への空調機新設にあたっては高効率タイプを導入した。 ・教育・研究と事務で別に管理してきたネットワーク環境を統合し、サーバ環境をクラウドへ移行する作業を年次計画的に進めている。	器導入コスト及び管理コストの削減を図ることができた。
2020年度	**年次計画内容**		
	・新校舎建築について、2021年１月末の竣工に向け、建設コンサルティングの協力を得て適正施行を確保する。 ・移転する学部・研究科の教育研究活動を活性化し、社会連携センター事業を推進するために必要な什器・備品の導入について、コストパフォーマンスの最大化を図る。 ・専門学校との連携協定を進め、Ｉ街区を含めた新札幌全体のエリア・マネジメントに参画する。 ・江別キャンパスでは、今後の学生規模に応じたキャンパスのコンパクト化と管理運営の効率化を図るための中期整備計画を策定する。 ・既存設備の補修、設備・機器・情報インフラの更新は、優先順位を付して年次計画的なメンテナンスサイクルを確立して経費を平準化する。 ・環境負荷（二酸化炭素排出）の低減と消費電力削減を進める。 ・私立学校施設整備費補助金を活用し、非構造部材の耐震対策工事を実施する。 ・長期低金利の融資を利用し、第２キャンパス（総合体育施設）の整備事業を実施する。 ・新札幌キャンパスの情報ネットワーク基盤を整備する。情報教育システムのリプレースを行う。事務ネットワークを統合仮想環境へ移行する。		